



民主 苦小牧号外
2026年
9.27
No.1158



日本共産党市議会議員

小野寺ゆきえです！

補聴器助成が介護保険に？

9月議会が終わったと思ったら、次は決算委員会。9月28日から始まります。私は国民健康保険（国保）や介護保険、上下水道や市立病院などの会計を担当します。

特に介護保険は、来年度からの新たな介護計画をつくる時期なので、今回の決算が重要になります。たとえば、施設の量や介護人材は不足していないか、保険料や利用料の負担は重くないかなどをチェックすることで、次期計画に反映できます。ということで、ただ今勉強中です。

今、市民の中から「補聴器の助成をしてほしい」という声が多く、私たちも議会で実施を求めてきました。市の答弁は、「次の介護保険計画のなかで検討する」ということでした。私は、補聴器助成と介護計画の接点が理解できませんでした。担当の職員さんに聞いてみると、介護計画に補聴器助成を盛り込み、保険給付費で賄う予定だということ

です。つまり、市民に負担していただいている介護保険料で助成をするということです。

高額な補聴器に対し、他市町村の助成額は数万円と少額ですが、知内町は片耳8万円です。私たちは「知内町並みの助成を」と求めてきましたが、介護保険制度は、介護を使えば使うほど保険料が高くなることが大きな問題点。高額な助成は介護保険料の値上げにつながります。私は、「なぜ一般会計を使わないのか」と聞くと、「財源確保が難しい」という回答です。ということは、介護保険料は高くなっても良いということでしょうか？ この視点も含め、決算委員会に臨みたいと思います。

国保も心配が多い会計です。これまで国保税は、市町村が自由に決めることができたが、国による“都道府県化”という法改正により、北海道全体で同じ国保税にすることになりました。苦小牧は、他のまちよりも国保税を低く抑えてきたので、北海道が決めた基準に近づけるために、毎年どんどん高くなっています。

そんな時、国は少子化対策や子育て支援を強化するという理由で、『子ども・子育て支援金』を創設し、国保や後期高齢者医療などの保険税（料）に上乗せすることにしたのです。国保の場合、単身者だと年間約8千円、子育て世帯だったら約9千円の上乗せです。上乗せせず、国がしっかり財源確保をして、子育て支援に取り組むべきではないでしょうか。頭にくる制度ばかりです。